

鹿児島県の経済が分かる情報誌

鹿児島県

2023

3月号

Vol.396

旅立ちの季節



寄稿

九州地域の観光復興に向けて
～スマホデータにみる観光行動の変容と観光地の対応

CONTENTS

01 コラム
うなぎの寝床 Vol.27 P.N. 赤と黒

02 南の風
財務省 九州財務局 鹿児島財務事務所長
増田 繁胤 氏



プレゼンを行う上村さん:P10

04 寄稿
九州地域の観光復興に向けて
～スマホデータにみる観光行動の変容と観光地の対応
公益財団法人九州経済調査協会 調査研究部 次長 松嶋 慶祐 氏

10 **鹿児島県ビジネスプランコンテスト**

12 Monthly Trend
タクシー業界について

経営のヒント

16 ビジネスQ&A【人事・労務】
18 台北だより
20 いっちゃんが宮崎



配車システム導入で効率の良い配車を実現:P14

22 経済概況

29 経済の“イマ”が分かる！

30 経済日誌

33 ビジネスセミナーのご案内

36 湯ネスコ

38 まちとひとと Vol.04
門間 ゆきの 氏

40 アートに触れる Vol.33 篠崎 理一郎 氏

42 BOOKs 今月の1冊・2月のBEST10

44 次号予告・編集者のつぶやき

WEB

当研究所
ホームページ
はこちらから



URL : <https://www.ker.co.jp>

- マンスリーデータ「全国・鹿児島県の経済指標、宮崎県・熊本県・福岡県・沖縄県の経済指標」につきましては、当研究所ホームページに掲載しておりますので、ご活用ください。
- 本誌の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。落丁本・乱丁本はお取り替えます。



公益財団法人九州経済調査協会 調査研究部 次長

松嶋 慶祐 氏

2002年九州大学文学部卒業後、財団法人（現・公益財団法人）九州経済調査協会入社。調査研究部研究主査、事業開発部主任研究員を経て現職。「九州経済調査月報」編集長、今年度から「九州経済白書」の統括責任者。主な研究分野は、経済統計や景気動向、流通・商業など。大学非常勤講師や企業・団体向けの講演、新聞・テレビ・雑誌等の取材対応、論文やレポートを多数執筆。これまでに、ハラル産業振興可能性調査業務（2013年度）、再生可能エネルギー分野における中小企業等の競争環境調査（2013年度）、にしきまると創造プロジェクト運営支援業務（2016～2020年度）、地域別支出総合指数（RDEI）の作成・分析・検証業務（2012～2020年度）なども多数手掛ける。

はじめに

2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が世界的に拡大し、23年を迎えても収束せず、人々の行動や企業の生産活動を抑制し、景気・経済に負の影響をもたらしてきた。なかでも大きなダメージを受けたのが観光産業である。コロナ感染拡大時の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、都道府県をまたぐ移動や旅行が抑制され、インバウンドに至っては22年夏まではほぼ消滅と言える状況に陥った。観光産業は九州のリーディング産業であり、力強さを欠く九州経済の成長をけん引する分野として期待されてきただけに、その影響は深刻であった。

22年度後半になると、政府、自治体は感染防止に努めつつ旅行支援策を実施したほか、海外からの渡航者に対する水際対策も緩和し、観光需要が本格的な回復へと転じる兆しがみられる。そこで本レポートでは、速報性が高く詳細な人流の動向を把握できるビッグデータを活用し、コロナによる観光行動の変容と観光産業への影響をいち早く明らかにする。そして、観光復興に取り組む地域の事例をもとに、今後求められる観光地づくりのあり方について考察する。

九州地域の観光復興に向けて スマホデータにみる観光行動の変容と観光地の対応



九州経済白書説明会鹿児島会場
＝3月2日、鹿児島銀行本店別館ホール

鹿児島県 ビジネスプランコンテスト *Business Plan Contest*

1月21日、ライカ南国ホールで鹿児島県ビジネスプランコンテストが開催されました。

本コンテストは、起業に向けた機運醸成、事業化支援を目的に、鹿児島県が2018年度から開催しているもので、今回が5回目となります。

今年度は過去最多64件の応募から選考された15件が最終審査のプレゼンに臨み、「温暖化を武器にした低コストなコオロギ養殖で家畜飼料を生産」を提案した県立市来農芸高等学校の上村愛(まな)さんが最優秀賞を受賞しました。



前列右から6人目が大賞を受賞した上村愛さん



プレゼンを行う上村さん



大賞

県立市来農芸高等学校
上村 愛さん

温暖化を武器にした低コストな
コオロギ養殖で家畜飼料を生産

上村さんについてお聞かせください。

県立市来農芸高校で寮生活を送りながら、畜産科で養豚を専攻して学んでおり、自主研究でコオロギの養殖や薩摩鶏の研究をしています。

今回のビジネスプランの概要と考案されたきっかけをお聞かせください。

大きく分けて、コオロギ養殖、オリジナル飼料の作製、こだわりの鶏卵販売の3つです。

私は授業や実習の中で化学肥料や飼料の

高騰が農家の方々を悩ませていることを知りました。そこで安価で効率のいい飼料を作ることができればと考え、コオロギを使用した飼料を発売しました。環境への負荷が少ない新たなタンパク源として注目されているコオロギですが、コオロギ養殖は教科書には載っていません。そのため、手探り状態で養殖を始めました。

まずコオロギを養殖し、そのコオロギの一部(パウダー)をオリジナル飼料の原料として活用します(写真①、②)。これに鹿児島県産の飼料米や米ぬかなどを配合し、オリジナル飼料を作製します。コオロギは雑食性のため何でも食べます。かつお節やサワボメ口などの地域資源を給餌できれば、より地域特性を出すことも可能になると思います。

一方で、コオロギは寒さに弱く、寒いと死んでしまつコオロギも多いため冬場は特に注意が必要です。そこでオリジナル飼料の作製の際に発生する約40度の発酵熱を活用し、生育に適した温度である27〜30度の環境を作り出すことで、コオロギの繁殖の際に使用する暖房機等の光熱費を削減できます(写真③)。寒さに弱いということは、地球温暖化は武器となり、また比較的温暖な本県の気候もアドバンテージになると考えています。

こうして作製したオリジナル飼料を小規模農家向けに販売し、さらにそのオリジナル飼料を与えた鶏の卵をブランド卵として販売していきたいです。

経営の ヒント

Chapter 1 ビジネスQ&A【人事・労務】

中小企業の月60時間超の時間外労働に対する
割増賃金率の引き上げについて

Chapter 2 台北だより

台湾の地方創生に向けた
取り組みについて

Chapter 3 いっちゃんが宮崎

春のスポーツキャンプ
にぎわい戻る

